



神奈川東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2014-2015年度 R I 会長 ゲイリー C.K. ホアン



第2590地区 ガバナー

大野 清一

- 会 長 山田 正憲
- 会長エレクト 江森 国一
- 副 会 長 天野 公史
- 副 会 長 鴻 義久
- 幹 事 植田 清司
- 副 幹 事 朝日 達夫
- 会 計 渡 邊 淳
- 副 会 計 白井 康夫
- S A A 小 山 市 康
- 副 S A A 長 井 章
- 副 S A A 青 柳 紀
- クラブ会報 竹 山 洋



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)

例会場 ホテルキャメロットジャパン

創立記念日 昭和 51 年 5 月 29 日

URL <http://www.kanagawahigashi.com/>

E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2014-2015年度 第2週報 No. 1843 2014年(平成26年) 7月11日 第1843回例会記録 7月18日発行

司 会 朝日 達夫 副幹事

点 鐘 山田 正憲 会長

斉 唱 「我等の生業」

四つのテスト 角田 伯雄 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 樋口 明 様 (神奈川 R.C 会長)
加藤 信明 様 (神奈川 R.C 幹事)

ビジター紹介 第2590地区 第4 G ガバナー補佐 鈴木元一郎 様
神奈川 R.C 金野 克佐 様

特別行事

神奈川 R.C 表敬訪問



神奈川 R.C 会長 樋口 明様、幹事 加藤信明様

本日〈7月18日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「それでこそロータリー」
- ◆ 献 立 幕の内弁当
- ◆ 卓 話 新年度挨拶

出席、職分・会選、会報、親睦、雑誌、会増

<< 本日の BGM

「オーバー・ザ・レインボー、アンチェインド・メロディ 外」>>

結婚記念日祝

佐藤 勝彦 会員 (7月11日)

会長報告

山田 正憲 会長

- ・この度、米山奨学生 林義晴のお父様をご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

幹事報告

植田 清司 幹事

- ・本日、例会終了後に7月度定例理事会を開催します。
場所 3F ナイト
- ・先週に引き続き、会報用ファイルを受付に置いておりますのでお持ち帰り下さい。

出席報告

西山 潔 出席委員長

会員総数	56名	(34+22)名	
出席会員数	43名	(27+16)名	
出席率	81.13%		
ゲスト	2名	ビジター	2名
前回補正後	94.00%	前々回補正後	90.00%

スマイルボックス

長井 章 副SAA

第2590地区ガバナー補佐 鈴木元一郎様 山田正憲・植田清司年度の門出を祝し、表敬訪問させて頂きました。貴クラブの皆様方へ何かとお世話になりますが、ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

神奈川R.C 会長 樋口明様・幹事 加藤信明様 年初のご挨拶に伺いました。今年度、山田会長、植田幹事をはじめ、神奈川東クラブの皆様にはお世話になりますが、よろしくお願い申し上げます。

神奈川R.C 金野克佐様 お世話になります。

山田正憲君 神奈川R.C 樋口会長、加藤幹事、ようこそいらっしゃいました。今年もよろしくお願い致します。

石川正三君 田邊さん、ありがとうございました。鴻さん、但野さん、ご苦労様でした。食べ切れなかった“すごいカツサンド”が本日の朝食。イヤハヤ大変なディナーでした。

月山 勇君 ア! つい・・・暑い、熱い・・・。皆様ご自愛の程・・・。

鴻 義久君 田邊さん、昨夜はお世話になりました。

山本 登君 夏の日差しです。

山本芳弘君 神奈川クラブ樋口会長、加藤幹事、ようこそいらっしゃいました。よろしくお願い致します。

天野公史君 樋口会長、加藤幹事、ようこそいらっしゃいました。今年度もよろしくお願い致します。

茂木知子さん ～ホント?～主人が北海道に行きました。毎日買い物に行く八百屋さんに私が行くとおかみさんが「あら、旦那さん来ないけどどうしたの?」と私に聞いて来ました。私は「北海道に行っているの」。おかみさんが「誰と?」。私は「ひとりで」。と答えました。「ホント?」「ツアーで」「ホントにひとり」私は北海道に野鳥写真のツアーに一人で参加したと聞いているのですが・・・。

但野真実子さん 美味しいお肉でした。ありがとうございました。

7月11日	12件	33,500円
本年度累計		143,500円

卓 話

「新年度挨拶」

◆職業奉仕委員会 委員長 角田 伯雄



今年度、職業奉仕委員長を仰せつかりました角田です。副委員長には、前年度ガバナー補佐 吉田隆男会員、委員は小池会員、白鳥会員、友添会員となります。

- ・職業の経験と才能をロータリーでの奉仕に生かすこと
- ・高い倫理基準を奨励し、助長しながら個人的活動、及び事業と専門職における活動のすべてを倫理的に行うこと
- ・社会に役立つすべての仕事に対する認識と敬意の念を推進すること

本年度は次の事項に取り組んで参ります。

- ①四つのテストの唱和 (毎月第一例会時)
- ②職業奉仕についてのクラブフォーラムを10月17日に開催します。
- ③優良職場訪問は、横浜市消防局金沢区幸浦ヘリポート、保土ヶ谷にある消防司令室

◆社会奉仕委員会 委員長 田口健太郎



この度、社会奉仕委員会の委員長を仰せつかりました田口でございます。

本年度の社会奉仕委員会におきましては、山田会長が示されました『地域住民の生活における質を高め、公共のために奉仕する活動を何か一つでも実現する』というテーマに基づき、石川副委員長を始め、山田富雄会員・朝日会員・藤橋会員から強力なサポートを頂きながら活動を推進して参ります。

ロータリーの社会奉仕とは、ロータリアンひとりひとりの個人生活、事業生活、社会生活において奉仕の理想を実行することであり、各ロータリー・クラブが多彩な社会奉仕事業を実践して参りました。

この社会奉仕活動に対するロータリーの方針と原則は、ロータリアンひとりひとりが「超我の奉仕」を実証し、地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために献身的に奉仕する事であり、すべてのロータリアン個人、またクラブにとって社会的責務であるとされます。

そして、R Iは各クラブの社会奉仕活動について、このように勸奨しております。

- 1) 地域社会における奉仕の機会を定期的に調査し、各クラブ会員に地域のニーズを検討させること。
- 2) 社会奉仕プロジェクトを実施するに当たっては、会員の得意とする職業上の能力や趣味の力を生かすこと。
- 3) どのようにささやかであっても、あらゆる社会奉仕活動が重要であると認識した上で、地域のニーズを汲み、地域内のクラブの立場や力量を勘案してプロジェクトを始めること。
- 4) 各種社会奉仕活動を秩序立てるために、ロータリー・クラブが提唱するインターアクト・クラブ、ローターアクト・クラブ、ロータリー地域社会共同隊、その他のグループと緊密に協力すること。
- 5) 国際レベルのロータリー・プログラムと活動を通じて社会奉仕プロジェクトを強化する機会を確認すること。
- 6) 社会奉仕プロジェクトの実行に当たっては、望ましく、また、実現可能な限り、必要とされる資金や人材の提供までも含めて、地域社会にも参加を求めること。
- 7) 社会奉仕の目標を達成するために、R Iの方針に沿って他団体と協力すること。
- 8) 社会奉仕プロジェクトが一般社会の人々に十分認められるようにすること。

9) 社会奉仕活動において他の団体の協同参加を促進する触媒としての役割を果たすこと。

10) もしそれが適当であるならば、公共組織、奉仕団体、その他諸団体に、継続中のプロジェクトを委譲すること。そうすれば、ロータリー・クラブは新プロジェクトに携わることが可能となる。

このようなR Iの精神に立脚して、当クラブにおいては今年度も社会奉仕活動を実践して参ります。

スリランカへの井戸建設支援プロジェクト・絵本の寄贈といったこれまでの継続事業を積極的に支援した上で、可能であれば地区補助金を活用した新規事業の検討も推進して参りますので、ご要望等が御座いましたら遠慮なくお申し付け頂ければ幸いです。

また、他の奉仕団体との協力も模索し、予算等で問題が無ければ新規の奉仕事業も検討して参ります。

また、本年も「神奈川県民まつり」に参画し、親睦活動委員会、国際奉仕委員会、青少年奉仕委員会、広報・IT委員会等の協力を得て、クラブ全体で活動して参りたいと考えておりますので、今年度の社会奉仕活動におきましても会員の皆様からご協力を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

◆国際奉仕委員会 副委員長 矢野 修二（代読）



今年度国際奉仕委員会の委員長を仰せつかりました横溝です。

国際奉仕委員会の大きな役割として国際交流事業がありますので、姉妹クラブである台北滬尾R. Cとの友好クラブ関係を継続発展出来るよう尽力して参ります。

また、スリランカへの井戸支援事業・英訳絵本の寄贈なども引き続き関連委員会と協力して行って参ります。

山田正憲会長のクラブ会長指標にもあります“笑顔で奉仕、奉仕で笑顔”を合言葉に活動を進めて参りますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

◆青少年奉仕委員会 委員長 友添 辰哉

本年度、青少年奉仕委員長の友添です。

名称については2013年度規定審議会で「新世代奉仕」から「青少年奉仕」に名前が変更されました。



青少年交換には、国際的に決められているルールがいくつかあります。「4Dルール」といって、飲酒（DRINK）、麻薬（DRUG）、バイクや車の運転（DRIVE）、個人的な男女の交際（DATE）、高校生でするので喫煙も禁止です。門限は夜10時となっております。

1. 本年度青少年交換学生としてエクアドルに派遣されます神奈川総合高等学校の伊藤主峰君を、スポンサークラブとして支援します。カウンセラーは伊東英紀会員です。また、派遣国から帰国した学生は「ROTEX」と呼ばれ、帰国後3年間は青少年交換委員会、及びプログラムに対するお手伝いと協力が義務付けられています。

2012-13年度地区青少年交換学生でありました小幡理沙さんにもROTEXとして参加してもらえるように要請して参ります。

2. 10月12日（日）神奈川区民まつりでは、同志社女子大学・京都光華女子大学の学生たちと連携し、今年も若い世代と合同で奉仕活動を続けて行きます。青少年の指導力を伸ばし市民としての責任感を培うことが青少年奉仕の目標です。「各ロータリアンは青少年の模範」というロータリーの標語は今日も変わらず重要なものとして受け入れられています。

3. また、来年の3月14日（土）～15日（日）1泊2日にて鶴見総持寺で行われる地区ロータリー青少年指導者養成プログラム（通称ライラ）のホストクラブを務めることになりました。地区RYLA委員会と協力して若者たちの活動の支援ができればと思います。

4. 継続的支援活動としましては、神奈川区少年少女ソフトボール大会への支援、フェリス学院高等学校との絵本の翻訳、その他地域への新たな奉仕活動の取り組みを検討しながら進めて行きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

◆SAA 小山 市康

今年度SAAを仰せつかりました小山でございます。クラブ経験が豊富なバスト会長の青柳さんと、いろいろな委員長を経験されて来られた長井さんと、共に活動できることは不慣れな私としては大変心強く思っております。

SAAとしての役割をよく理解し、会合が楽しい雰囲気の中で行われるよう秩序正しく円滑に設営・監督したいと思います。従来通りの気品と風紀を守り、クラブ活動を温かく盛り上げていきたいものであります。

1. 例会

席次について、多くの会員の方々が毎回同じテーブルに着席するように見受けられますので、毎月第1例会は、テーブルミーティングの構成メンバー毎にテーブルを決めさせていただきます

食事の献立についてはメニューに中華等も組み込みたいと思っています。その時にはご感想をお聞かせ下さい。

例会開始後において、ビジターが紹介されたときは親睦活動委員が中心になり、笑顔で歓迎の握手をする様心掛けて下さい。他のクラブに行った時に温かな歓迎の握手をもらおうと大変に嬉しいものです。

ロータリークラブはサービス業ではありませんが、やはり「おもてなし」＝「ホスピタリティ」が今の時代には必要、というよりも外せないのかなとも思います。

また当然ではありますが、携帯電話の取扱いや私語を慎むことについてもご注意願います。

スマイルボックスについては、会場内を和やかな雰囲気させる効果があります。また奉仕会計の原資となるもので、全会員のご理解とご協力を切に願っております。

記念品については、誕生日祝い時に前年度の結婚記念日祝いと同シリーズのペアワイングラスを、また結婚記念日（単身者会員は入会記念日）祝い時には生花をご自宅へ宅配させていただきます。

例会前のBGMを前年と同じくお流ししますので、ごゆっくりおくろぎ下さい。また皆様からのBGMのご提供をお願いします。

2. テーブルミーティング

例年通り、テーマに沿って話し合いをして頂きますが、テーマについては統一とは限りません。マスターは入会期間の浅い会員、副マスターはベテラン会員とし、入会期間が浅い会員はロータリー活動等に関して日常疑問に思っていることをテーマにしてもらうことを優先させていただきます。

以上雑駁な説明でしたが、一年間よろしくお願い致します。



◆プログラム委員会 副委員長 月山 勇(代読)



委員長 佐藤 勝彦 副委員長 月山 勇
委員 矢野 修二 赤堀 和人

以上4名の、強力布陣メンバーでのぞんで参りたいと思います。

まず心掛けとしましては、会員の方々の人生観や職業倫理強化、あるいは奉仕活動を行っていく上で必要となる知識・情報・思想などを卓話という時間の中で、様々な業界の方をバランス良く割り振りし、卓話を通じて会員の皆様のお役に立てる様、努めて参りたいと考えます。

また、月山会員、矢野会員、赤堀会員という顔の大きい・・・顔の広い方ばかりですので、お一人5名程の卓話者を選定頂き、総合力でバックアップ態勢をしいて頂きたく、併せて他会員の方々の卓話ご紹介のご支援を、宜しくお願い申し上げます。

本年度一年、宜しくお願い申し上げます。

ロータリーニュース

ホームレスの子どもたちに新しい未来を

米国アトランタの少女、ジェニファーさんは17歳にして路上で暮らす身に・・・。

5歳の頃から、兄弟や母親のボーイフレンドによる虐待を受け、ついには家を追い出されたジェニファーさん。頼るあてもなく路上で生活し、人身売買と売春の世界に引き込まれて2年間を過ごしました。そんな生活からやっと見つけた希望の光が「Covenant House」でした。

「Covenant House」は、ホームレスの子どもたちを助ける米国の非営利団体です。同団体がエグゼクティブディレクターを務めるアリソン・アシェさんは話します。

「ある調査によると、子どもが路上生活を強いられてから48時間以内に、その子を悪用しようとする人が寄ってくるそうです。その多くは売春が目的です。子どもたちは瞬間にそうした裏の世界に

引き込まれてしまうため、ここに来る頃には既に被害や虐待を受けているケースがほとんど。私たちの仕事は、そうした子どもたちに心のケアと未来の希望を与えることです」

アトランタ・ロータリークラブは、この「Covenant House」を支援するキャンペーンを実施し、ジェニファーさんのような少女に助けの手を差し伸べています。2年前にキャンペーンが始まった当時、アトランタで青少年の駆け込み寺といえはこの「Covenant House」だけでした。限られた設備で、床に眠る子どもがいるほど。また、入居待ちのリストには多くの子どもが名を連ねていました。

アトランタ・ロータリークラブが支援に乗り出すきっかけとなったのは、検察官のサリー・イェーツさんによるクラブ講演でした。そこで、地元アトランタが児童買春の多発都市となっていることを聞いたのです。

クラブ会員のクラーク・ディーンさんは当時を振り返ります。

「地元の町でそんな犯罪が横行していると聞いて、皆が大きなショックを受けました。それを知って何もせずにはいられません。幸いにもクラブには、行動力にあふれ、優れた人脈をもつ会員が集まっていました」

不動産業に就くディーンさんは、「Covenant House」の移転先となる新しい土地を破格値で購入。またクラブ会員の1人がNBA「アトランタ・ホークス」の会長を務めていたことから、試合のチケットや選手たちの逸品を集めてオークションを行い、シェルターの運営資金を確保。さらにデルタ航空で役員を務める会員が100人以上のボランティアを集めて新居地の清掃と施設修繕を手伝いました。

デルタ航空からは、シェルター支援に100,000ドルの寄付も得られました。各方面からの支援で、集まった寄付金は360万ドルに上ります。

今年6月にシェルターは新しい敷地へ移り、現在は緊急収容施設と寮施設を完備。また敷地内では、芸術セラピープログラム、図書室、保健クリニック、レクリエーション施設も充実しています。

「新しい敷地は、緊急シェルターというよりも、子どもたちが安全な環境で学び育ち、将来に向けた準備ができる、大学キャンパスのような雰囲気」とディレクターのアシェさん。

カウンセリングサービスも行われるようになりました。精神衛生プログラムでは、性的虐待や薬物中毒の患者を診る専門家が常勤し、教育プログラムでは、子どもたちが再び学校教育を受けられるよう支援しています。

このほかにも子どもたちが職業スキルを身につけ、履歴書の書き方や面接の受け方を学び、最終的には地元で協力関係を結ぶ企業へ就職できるよう支援も行われています。

ロータリーからの支援なしにここまでの運営を実現することはできなかった、と話すアシェさん。

「ボランティアの皆さんのおかげで、ほんのわずかな資金で運営を続けることができます。地域のリーダーが力を合わせて地元の問題を解決できる、ロータリーの力を実感しています」

ロータリー・ニュース

本を読んで世界観を広げる

ここは、米国ノースカロライナ州の小学校。教室から子どもたちの明るい声が聞こえてきます。好きな食べもの、飼っているペット、夢中になっているスポーツなど、話の種はつきません。どこの学校にもある素朴な風景。でも一つ、特別なことがあります。

子どもたちは、地球の裏側、インドにいる友だちと話をしているのです。

地元のニーズからプログラムを考案

これは、“Rotary Reading Rangers (ロータリー読書レンジャー)” という課外プログラム。読書の力を養い、ビデオ会議で海外の生徒と交流しながら世界観を広げることを目的としています。

「視野を広げて、国境をこえた友情を築いてもらいたかった」と話すのは、プログラム考案者のトッド・テイラーさん(ダラム・ロータリークラブ会員)。平均的な読解力を満たしていない地元の生徒が4割を超えることを知ったテイラーさんは、本の寄贈に加えて、読解力向上プログラムを始めることを思い立ちました。

まずは、勤め先の人脈を生かして、インドに支部をもつ企業研修団体と協力関係を構築。そうして、地球の裏側とつながるビデオ会議を実現することができました。

子どもたちに生まれる自信

このプログラムでは、35名のアドバイザーが子どもたちの読書をサポートしています。開始から間もないプログラムですが、すでに絶大の効果が出ています。

「プログラムで25時間学ぶと、1学年に相当する読解力を向上できる」とテイラーさん。実際、生徒たちは5カ月間で、1.5学年相当の力を伸ばすことが出来たそうです。

テイラーさんのクラブ仲間で、プログラムのアドバイザーであるニューマン・アギーアさんは、ビデオ会議の効果を絶賛します。

「海外の子たちとの共通点を発見し、人と人とのつながりを認識し、豊かな世界観を育てることができます。私が教えている子たち

は、当初、学業面での遅れをとっていたのですが、プログラムを通じて自信をもって本を読めるようになり、数週間のうちに多くの文字を正確に読めるようになりました。みるみると力をつけて、本を読んで聞かせてくれるとき、何よりの喜びを感じます」

学校側との協力がカギ

このようなプロジェクトでは、学校関係者にも参加してもらい、アドバイザーのための研修で力を貸してもらうことが大切だとテイラーさん。とくに、教員と足並みをそろえて、学校での問題や懸念について把握することの重要性を強調します。

「読書の楽しさを知った子どもたちは、模範となって行動し、夢を語るようになる」とアギーアさん。

「どの地域社会にも、読み書きを苦手とし、教育を受ける準備が出来ていない子どもたちがいるはず。そんなときに、早い時期から効率的に識字サポートを行い、地域全体のレベルを押し上げる支援をする人たち。それがロータリアンなのだと思います」



ロータリー・ニュース

次回《7月25日》の卓話予定
 新年度挨拶
 広報・IT、R情報、R財団、米山、戦略、40周年記念事業

例会 4 回

6 月度出席報告

名譽会員 出席率算出除外会員

会 員	メイクアップ後	ホームクラブ									
青柳 紀	100	75	加藤 仁昭	175	100	角田 伯雄	100	50	吉田 隆男	275	75
赤堀 和人	150	100	金森 欣一	100	100	友添 辰哉	75	75	吉橋佐千男	0	0
朝日 達夫	50	50	加野 亮一	100	100	長井 章	100	100	我妻 隆邦	25	25
天野 公史	175	100	小池 将夫	125	100	中野 真理	0	0	渡邊 淳	100	100
雨宮 和則	0	0	河野 明光	125	100	中村 真巳	0	0	富居 利貞	25	25
飯田 泰之	125	100	小山 市康	150	100	西山 潔	100	50			
伊澤 政宏	75	75	佐藤 勝彦	100	100	藤橋恒一郎	50	50			
石川 正三	100	100	澁谷 高弘	50	50	保坂 一成	125	100			
伊東 英紀	150	100	白井 康夫	50	50	茂木 知子	125	100			
岩澤 利雄	125	100	白鳥 厚夫	100	100	森永 健	125	100			
植田 清司	150	100	須永 久一	100	75	矢野 修二	150	75			
梅崎 興生	100	100	田口健太郎	125	100	山本 幹夫	100	100			
江森 国一	125	75	竹山 洋	100	100	山崎 善也	50	50			
大河原 理	100	100	但野真実子	100	100	山田 富雄	50	50			
鴻 義久	100	50	田中龍太郎	125	100	山田 正憲	175	100			
大橋 秀行	0	0	田邊 正彦	75	75	山本 登	100	50			
岡部雄一郎	75	75	月山 勇	125	75	山本 芳弘	175	100			

月平均 90.23%